

『4つの土地』

'22/01/23

聖書箇所: マタイの福音書 13章 1-23節 (新約 p.24-)

今日と来週、私たちは、イエス様が教えてくださった、大切な救いのメッセージについて学んでいきたいと思ひます。…多分、今日、このメッセージを聞いてくださっている皆さんは、信仰をお持ちの方が多くと思ひますけれども、皆さんは、聖書のみことばをどのように取り扱っておられますか？…皆さんが聞いて、学んだみことばは、大きく…、たくさんの実を結んでいるでしょうか？

こんなこと…、説教者としては決して、有ってほしくはありませんが、ひょっとしたら、皆さんは、日曜日に教会のメッセージを聞いて、それを1週間の間、振り返ることなく、そのまま放っておかれてはいないでしょうか？それとも、喜んで受け入れてくださるでしょうか？あるいは、聞いて学んだみことばの成長を邪魔するものは無いでしょうか？

命題: 聖書のみことばに対する、「5つの態度」とは？

今日、皆さんと一緒に学んでいきたい、聖書のみことばは、マタイ 13:1-23 になります。多分、もう皆さんは、聖書のみことばを開けてくださっていると思ひますが、そのみことばから、今日、私たちは、聖書のみことばに対する、「5つの態度」というものを観察していきたいと思ひます。このみことばは、「今から見ていく4つの土地の内、必ず、あなたはどこかに属している！」ということを教えてくれています。

果たして、あなたは、どの種類の土地で…、そして、どういったような結末を迎えるのでしょうか？どうぞ、今日は、そういった感覚で、メッセージに耳を傾けてくださいますことを期待いたします。そうすることによって、私たちの、この聖書に対する思いや姿勢が、ますます、神様の前に正しいものとされていって、私たちの生き方が変えられていくことを願ひます。まずは、今日のみことばの前半となる、マタイ 13:1-9 までを、こちらで読ませていただきます。そこには、このように記されてあります。

- 1 その日、イエスは家を出て、湖のほとりにすわっておられた。
- 2 すると、大ぜいの群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に移って腰をおろされた。それで群衆はみな浜に立っていた。
- 3 イエスは多くのことを、彼らにたとえで話して聞かされた。「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。
- 4 蒔いているとき、道ばたに落ちた種があった。すると鳥が来て食べてしまった。
- 5 また、別の種が土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。
- 6 しかし、日が上ると、焼けて、根がないために枯れてしまった。
- 7 また、別の種はいばらの中に落ちたが、いばらが伸びて、ふさいでしまった。
- 8 別の種は良い地に落ちて、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結んだ。
- 9 耳のある者は聞きなさい。」

I・道ばた と表現された人々！ (4, 19 節)

まず、最初に語られているのは、『道ばた』と称されたあるグループです。これは、一体、どういう人たちのことを指しているのでしょうか？…今回は、イエス様がメッセージをされた、そのしばらく後で、弟子たちの質問に応じて解き明かしてくださった後半部分も、併せて参考にしていきたいと思ひます…。今読んだみことばの少し後、19 節で、イエス様は、『道ばた』と称された者たちのことを、こう説明していただきました。

19 御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。

●『道ばた』の特徴

ここで問題にされているのは、蒔かれた種の良し悪しではありません…。そうですよね？蒔かれた種のことではなく…、蒔かれた土地 (= 土壌) の良し悪しに関する話がなされているのです。実は、このみことばは、時々、「4つの種の例え」と呼ばれることがあるのですが、正しくは、「4種類の土地に関する例え」などと呼ぶべきかも知れません。だって、私たちが注目すべきは、蒔かれた種の良し悪しではなく…、蒔かれた「土地の良し悪し」であるからです。

では、イエス様が、ここで言われた土壌…、つまり、土地とは何を指しているのでしょうか？正直、それは、簡単です。…と言いますのも、イエス様は、これと同じ話を、ルカ 8 章でも語ってくださっているからです。そこで、イエス様は、こう教えてくださっています。ルカ 8 章、『11 このたとえの意味はこうです。種は神のみことばです。12 道ばたに落ちるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いたが、あとから悪魔が来て、彼らが信じて救われることのないように、その人たちの心から、みことばを持ち去ってしまうのです。』って…。いかがでしょうか？…マタイ 13 章のみことばでも、十分、明らかですが、ここルカ 8 章では、もっと明らかに、イエス様が説明してくださっています。蒔かれた土地の状態とは、「みことばを聞いた者たちの心」を指しているのです！

当たり前なのですが、今から 2000 年も前のこの当時、「道」と言っても、それは、アスファルトやコンクリートで舗装されているはずがありません。…ここで言われている『道ばた』という場所は、多くの人たちによって踏み固められてしまっているために、もう何物をも寄せ付けられない「頑なさ」をイメージさせます。

ですから、ここで、『道ばた』(4:19 節) と称された者たちとは、その蒔かれた…、神様のみことばを聞きはするが、全く悟らない (= 深く理解しようとしない) ので、そのみことばが効果をなすことなく、『悪い者』(19 節) (平行個所のルカ 8:12 には、はっきりと『悪魔』とある) によって、奪い去られると言うのです…。

確かに、このみことばが教えてくれているように、こういった方々が、ここ日本には多いように思われます。私たちが、何とか、必死になって、聖書のみことばや福音を語っても…、あるいは、教会にお誘いで…、その人たちがみことばを聞いてくださっても…、それを受け入れてくれないどころか、大した関心も持たずに、すぐに忘れられてしまう…。皆さんの周りにも、そういった人たちがおられるではありません？

●その原因

では、一体、何が問題なのでしょう？ ⇒ このみことばが、私たちに教えてくれている大きな理由は、その人がみことばを聞いただけで、それで終わってしまっている (= 満足してしまっている？何の問題を感じていない?) という点です。…というのは、ここで記されてある、4つの土地の内、他の3つは、みことばを聞いた後、何らかの行動や反応があるのに対して…、この『道ばた』と称された者たちだけは、何の変化も…、反応も無いのです。そうですよね？彼らの心は、あまりにも頑なになってしまっているので、もう、何も寄せ付けられない頑固さがあるのです。それこそ、『道ばた』と称された者たちが、福音を聴いても変えられない原因だというわけです。

丁度、そこらにある、まだ舗装されていない道が、長年に渡って踏みつけられて…、堅くなってしまって、何物をも、簡単には受け付けられないような…、そんな状態になってしまっているのと同じです…。また、みことばはこうも教えてくれています、「神は、明らかに、御自分を示しておられる」って…。…にも関わらず、人間の側が、その神様に対して心を開こうとしないのです！ローマ 1:21 で、『というのは、彼らは、神を知っていないながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。』とある通りです。また、ローマ 1:28 でも、こうあります、『また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。』って…。このように、その人たちが、神様に対して、頑なになればなるほど…、益々、その人の心は頑なになっていきます。丁度、道ばたが、段々、堅くなっていくように…。

私たちがつい最近学んだ、マタイ 25 章のみことばが教えてくれているように、神様のことを拒み続けた者たちが受けるべき裁きというのは、「永遠の裁き」であります。黙示録 20 章では、そういった者たちが、悪魔やにせ預言者たちと一緒に、「永遠に昼も夜も苦しみを受け続ける」(黙示録 20:10)ということをお教えてくれています。

だからこそ！私たちは、救われていない人たちのために祈るのです！…と言いますのは、最終的に、彼ら…、救われていない人たちの心を開いて、人を救ってくださるのは神様の御業だからです。…だから例えば、ルカ 24:45 では、あのエマオ途上でイエス様と出会った弟子たちについて、こう表現されてあります、『そこで、イエスは、聖書を悟らせるために“彼らの心を開いて”、』って…。また、使徒 16:14 には、『テアテラ市の紫布の商人で、神を敬う、ルデヤという女が聞いていたが、“主は彼女の心を開いて”、パウロの語る事に心を留めるようにされた。』ということが記されてあります。

⇒このように、私たち人間の救いには、必ず、神様の働きがあります！…もう少し言えば、三位一体なる神様の内、聖霊なる神様が、私たちに、罪について、義について、裁きについて、理解させてくださるのです(ヨハネ 16:8)！…だから、私たちは、その人たちに証しをするだけでなく、その人たちの心が開かれ、その人たちが救われるよう、祈っていく必要があるのです…。

II・**岩地**と表現された人々！(5-6、20-21 節)

さて、その次に教えられているのは、『**岩地**』と称されているグループです…。では、これは、具体的に、どういった者たちのことを指すのでしょうか？イエス様は、その解き明かしを、今日のみことばの 20-21 節で、こう説明してくださっています。

20 また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。

21 しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。

●『**岩地**』の特徴

『**岩地**』と称された者たちの特徴についても、比較的、明確に教えられています。20 節にあるように、『**みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のこと**』です。でも、その何が問題なのでしょう？続く 21 節をご覧くださいますと、『**しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。**』とある通りです。そこが問題なのです…。

現在もそんなのですが…、このパレスチナのある地方は、非常な荒地で、石や岩がゴロゴロ転がっているような土地です。ですから、種を蒔いて…、せっかく芽が出てきても、実は、そのすぐ下に大きな岩の層があって、すぐに枯れてしまう…、なんてことも、頻繁に起こり得るのだそうです。

実は、そのような、『**岩地**』と称された者たちの特徴を観察してみますと、この『**岩地**』特有の表現があるのです。…それは何でしょう？⇒それは、『**すぐに**』という言葉です！今日のみことばを見てみますと、5 節…、そして、20 節と 21 節にあります(ただし、5 節では「εὐθὺς」…「すぐに」などの意、20 節、21 節では「εὐθύς」…「まっすぐな」などの意)。また、20 節をご覧くださいと、『**すぐに喜んで**』とあることに気付かされます。つまりは、非常に、「感情的」なのです。感情が悪いものではありません！だって、確かに、信仰には…、また、悔い改めには…、感情的な要素が含まれるはずですから…。

●その原因

じゃあ、一体、その人たちの何が問題なのか？と言うと、その人の信仰？(=霊的な理解)が、感情

によって支えられてしまっているというところに、問題や弱点があるのです。I コリント 15:1-2 でも、『1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音の**ことばをしっかりと保って**いれば、この福音によって救われるのです。』とあるように…、私たちは、しっかりと…、知性を働かせて…、理性を保って…、この聖書が教えてくれている神様のことを正しく理解して…、そして、信仰を持たないといけないのです。

しかし、ある方々は、みことばを聞いて…、福音を聞いて…、感情だけが先走ってしまって…、『**すぐに喜んで**』、神様のことを信じ、受け入れるのですが…、『**すぐにつまずいて**』しまうのです。その人の問題は、感情が根拠になっているが故に、**感情的な高揚**と言うか…、**気分が乗らないと教会に来ないし、何か、気が進まない**と、神に従っていかうとしません。そして、やがて、教会にも来なくなってしまふのです…。

そのように、残念なことは、その人の信仰？が、聖書の正しい理解や意志でもって支えられているのではなく…、感情的なもので支えられてしまっているということもそうですし…、また、現代のキリスト教会も、そのような傾向を助長するかのよう、教会で語られている福音のメッセージが、喜びや希望…、あるいは、その人の価値や自尊心・自己承認などといったような…、二次的なものが優先されてしまっていて、1 番肝心な、真の造り主なる神様や、その神様が忌み嫌われている罪や神様の怒り、裁き…、また、神様への献身や従順、そういったものが別のものに置き換えられてしまっているという現実です。

実は、数年前に、私がかつて所属していた教会の方と話をいたしましたら、その方が、「神様とは、私たちが信じるだけでなく…、私たちが従わないといけない主権者でもある！だって、聖書には、『**…あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。**…』(マタイ 11:29)ということが教えられてあるでしょう？」と言ったら、それを聞いた、別のある方は、「いいえ！私の信じている神様は、そんな方ではありません！」と言って、怒って、もう教会に来られなくなってしまったのだそうです。

このように…、残念なこと、この世の多くの方たちは、自分が信じたいような…、あるいは、自分が気に入るような神様を探し求める傾向にあります。しかし、それは、真の神様ではありません！真の神様とは、私たちが、気に入ろうが、気に入るまいが、神様なのです！私たち人間に問われているのは、「あなたは、このわたしを信じますか？受け入れますか？」ということなのではないでしょうか？

III・**いばらの中**と表現された人々！(7、22 節)

3 目目に教えられているのは、『**いばらの中**』と称されている者たちです。これは、どうでしょうか？イエス様は、その解き明かしを、今日のみことばの 22 節で、このように説明してくださっています。

22 また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞かすが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。

●『**いばらの上**』の特徴

ここで、まず、説明しておきたいことは、ここ 7 節と 22 節では『**いばらの中に**…』と訳されてありますが、原語であるギリシヤ語を観察してみますと、『**いばらの上に**』というような表現で書かれてあります。ですから、欄外の脚注をご覧くださいますと、直訳すると「上」にあります…。これは、恐らく、こういった状況のことを説明してくれています…。種蒔きをする前に、当然ながら、荒れた土地の草刈りなどの作業をします。その草刈りをした後、一見、雑草などは見当たらないのですが、土の中には、まだ、いばらなどの「雑草の根」が残っているような状況です。種を蒔いた時は分からなくても、しばらくすると、期待していた作物よりも早く、いばらの方が成長してしまって…、結局、そういった雑草などによって、蒔かれた種が十分には成長しない…、実を結ぶまでには成長していかない…、そういう状況です。

つまりは、信仰(と言ってしまえば良いのかどうか?)が成長するよりも早く、この世の様々な誘惑や、富との選択・葛藤などがあって、結局は、この世や富などの誘惑に負けてしまう人たちのことです…。

●その原因

では、こういった人たちの問題点は何でしょう? ⇒このみことばは、ちゃんと、そのことも教えてくれています。それは、『この世の心づかい…、富の惑わし…』という言葉があるように、様々な思いが、神様への愛よりも勝ってしまっている点です。だから、彼らは、神様のみことばである聖書を聞いても、それよりも、この世のことや富のことなどが優先されてしまっているがゆえに、実を結ぶことができないのです。…例えば、イエスは、**マタイ 6 章**で、こう教えてくださっています。『**24 だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。**』(マタイ 6:24)』って…。

良いでしょうか、皆さん? イエスは、弟子たちに何と教えてくださいました? 例えば、**マタイ 10 章**、『**32** ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。 **33** しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。 **34** わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思っはなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。 **35** なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たからです。 **36** さらに、家族の者がその人の敵となります。 **37** わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。 **38** 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。 **39** 自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとします。』(マタイ 10:32-39)

⇒このように、イエスは、「わたしのことを一番に愛しなさい! わたしよりも、親たちや子どもたちを愛するような者は、わたしにふさわしくありません! そのような者は救われ得ない!」ということをおっしゃったではありませんか? 確かに、そういったことは簡単なことではありません! 難しいことです! …でも、だからこそ、私たちの信仰が本物かどうか試されるわけですよ!

この少し前で、イエスは、「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」と言って、大胆に、真の神様のことを証しすることを弟子たちに要求されたじゃないですか! そうでしょ! …それこそが、本当に救われた者の証しだからです! …どうか、皆さんも、そのような信仰を持っていたきたいと思えます…。

IV・**良い地**と表現された人々!(8、23 節)

4つ目に教えられているのは、『**良い地**』と称されている者たちです。これに関して、イエスは、その解き明かしを、今日のみことばの 23 節で、このように説明してくださっています。

23 ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。』

●『良い地』の特徴

『**良い地**』と称された人たちの特徴…、それは第 1 に、『**みことばを聞いてそれを悟る**』ということですから…。ここで、「悟る」と訳されてある言葉(συνίημι)は、「共に」という単語と、「送る」という単語の合成語

で、「まとめる」というようなイメージの言葉で、「深い理解」や、「総合的な理解」を意味します。ですから、みことばの深い理解が、その人の内に備わっていることが分かります。

また、2 番目の特徴として、**良い地**と称された者たちは、『**遠ばた**』や『**岩地**』、『**いばらの中**』と区別されていることから、①聖書のみことばに対して真剣で、②感情的な…、言い換えれば波のあるような信仰でなく…、③誘惑にも負けないような…、強い信仰者とも言えるのではないのでしょうか?

だから、彼らは、多くの『**実**』を結ぶことができるのです! …しかし、ここで語られているところの『**実**』が何を意味するのかが、難しいところです。恐らく、ここで言われている実とは、「御霊の実」や、「その人の生き方のことではないでしょうか? …例えば、私たちがつい最近学んだ、**マタイ 25 章**のみことばが教えてくれているような…、①再臨のための備えをしている、②神様から与えられた恵みを感謝して、精一杯、神様のために生きている、③神様の愛を実践して生きている、といったような、神様の喜んでくださるもの全体と考えて良いのではないのでしょうか? …と言いますのは、御霊の実や、救われた者たちが、神様に喜ばれるような生き方をしていくということは、聖書の他の箇所でも、明らかに教えてくれているからです。

●その原因?

一体、どうして、このような違いが出てくるのでしょうか? ⇒平行箇所である、**ルカ 8 章**で、**イエスは**、こう説明してくださっています、『**15** しかし、良い地に落ちるとは、こういう人たちのことです。 **正しい、良い心**でみことばを聞くと、**それをしっかりと守り、よく耐えて、実を結ばせるのです。**』とあるように、まず、心(=態度)が違うのです。彼らは、純粋な心を持って、自分の損得や自分の都合などで、物事の真理を判断しようとはしません! なぜなら、真理とは、自分たちの損得で判断できるものではないからです。

次に、『**それをしっかりと守り…**』とあるように、彼らは、知識だけでなく…、行ないが伴っているのです。そして、その行ないは、みことばを実践することだけに留まりません。『**よく耐えて…**』とありますように、彼らには、しっかりとした忍耐が伴っています。だから、彼らは、苦勞して…、実を結ぶことができるのです。

ですから、例えば、主の兄弟ヤコブはこう教えます。**ヤコブ 1:2-4**、『**2** 私の兄弟たち、さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。 **3** 信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。 **4** その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。』(ヤコブ 1:2-4)』って…。

⇒「試練というものは、その人の信仰を試すものでもある…」そう、ヤコブは教えます。確かに、この**マタイ 13 章**で、イエスが教えてくださったように、その試練をどのように受け止めるかで、その人の信仰の有無を明らかにする場合もあります。また、つい先週学んだように、あのピリビの町で、パウロやシラスたちは、神様から与えられた試練がパウロたちの信仰を明らかにして、そのことが看守たち一家の救いへと繋がっていったでしょ! …そのように、信仰ゆえの試練は、私たちに忍耐を生じさせます。それによって、私たちは益々、成長し…、強くなっていくことができ…、それが、私たちに何らかの実を結んでいくことになっていくわけです。

V・**神様ご自身の、みことばに対する**態度**!**(9-18 節)

最後、駆け足で、皆さんと一緒に見ていきたいのは、神様御自身のみことばに対する態度です。…と言いますのは、神様は、御自身のみことばを…、誰に対しても、全く同じようには明らかにしておられないからです。天の神様は、明らかに、ご自身のみことばやそのみことばを、すべての人たちに対して、同じように明らかにしておられません。最後に、そういったことを、今日のみことばの 9-18 節で見ていきたいと思えます。そこには、こう記されてあります。

- 9 耳のある者は聞きなさい。」
- 10 すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたとえてお話しになったのですか。」
- 11 イエスは答えて言われた。「あなたがたには、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません。」
- 12 というのは、持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうからです。
- 13 わたしが彼らにたとえて話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。
- 14 こうしてイザヤの告げた預言が彼らの上に実現したのです。『あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。』
- 15 この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。それは、彼らがその目で見、その耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わたしにいやされることのないためである。』
- 16 しかし、あなたがたの目は見えているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。
- 17 まことに、あなたがたに告げます。多くの預言者や義人たちが、あなたがたのしているものを見たいと、切に願ったのに見られず、あなたがたの聞いていることを聞きたいと、切に願ったのに聞けなかったのです。
- 18 ですから、種蒔きのたとえを聞きなさい。

ここで、弟子たちは、イエス様のところに来て、「どうして、大勢の群衆(たち)には、例えでお話しになられたのですか?」と言って、その理由を問います。だって、話の主題を話さずに、例えの部分だけを話すというのは、簡単に聞きやすいかも知れませんが、その意味している大事な部分が何かを知ることが無いわけじゃないですか! そういうのって、おかしいでしょ? ⇒それに対して、イエス様はこうおっしゃいます、「神の教えを知ることが許されている者と、そうでない者たちがいる。」って…。ちょっと意外です…。だって、聖書のみことばは、『神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。』(1テモテ 2:4)と教えるからです。

でも、今日のみことばは、そういうことの原因について、こう教えてくれています。13節にあるように、彼らが、『…見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないから…』だ! って…。このマタイ 13:2 に、『すると、大ぜいの群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に移って腰をおろされた。それで群衆はみな浜に立っていた。』とあるように、この時、実に、多くの者たちが、イエス様の話を聞くためにやって来たことが分かります。でも、その目的は、何でしょう? 果たして、彼らは、本当に、イエス様の話に耳を傾けて…、真の神様のことを知りたい! 真の神様に聞き従いたい! と思っていたのでしょうか? …いいえ。そうではありません。イエス様は、すべてをご存知であったのです。

そのイエス様が、こうおっしゃるわけです、例えば、15節、『この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。…』って…。要は、当時の民衆たちの心が頑なであったのです。だって、「目がつぶっている…」なんて、明らかに、その人が、自分の意志で見ようとしていない証拠じゃないですか! そうでしょ?

一体、どうして、天の神様は、すべての人を救ってくださらないのでしょうか? だって、神様は、どんなことでも、できるわけでしょ? だったら、天の神様が、その人の心を開いてくださったら? と、私たちは思うかも知れませんが、しかし、違うのです! 神様が、その人のことを救ってくださらないのではありません! その人が、神様のことを拒んで…、真理を見ようとはしていないのです! だから、神様も、その者たちのことを救ってくださらないのです。

どうぞ、皆さん。今日のみことばの少し前、マタイ 12 章をご覧ください。実は、ここで、重要な出来事が起こっているのです。どうぞ、まずは、9 節以降をご覧ください。そこで、イエス様は、片手のなえた者を癒されます。また、15 節以降には、そのイエス様についてきた、多くの者を、イエス様が癒されたという記事が載っています。そして、22 節です。今度、そこで、イエス様は、『悪霊につかわれて、目も見えず、口もきけない人』を癒されます。…にも関わらず、どうぞ、24 節をご覧ください。『これを聞いたパリサイ人は言った。「この人は、ただ悪霊どものかしらベルゼブルの力で、悪霊どもを追い出しているだけだ。」』って…。何と、当時のパリサイ人は、イエス様の奇蹟を見て…、それを「悪魔の所業である!」と言い切ったのです。もちろん、そんなことは絶対に有り得ないわけで、イエス様は、そういうことに対する反論を、25 節以降で語っておられます。そして、その反論の中で、あの有名な、31 節、『…人はどんな罪も冒洗も赦していただけます。しかし、御霊に逆らう冒洗は赦されません。』というみことばが語られるのです。

正直、ここ 31 節のみことばは、難解なみことばで、その解釈が難しいとされています。ですから、今日は、もう時間の関係もあって、ここ 31 節のみことばを観察することはできません。もし興味がありましたら、八田西 CC の YouTube から 2020/10/4 のメッセージを聴いてみてください。…実は、このエピソードは、マタイ伝だけでなく…、マルコ伝も、ルカ伝も、書き記して…、この出来事があって後、イエス様の伝道活動というものは、それまでは、どちらかと言うと、大勢の群衆たちを対象に話されていたものが、これ以降、「聞く耳がある」弟子たちに対する個人的な訓練というようなものに変っていったわけなのです。

ですから、今日のみことばである、マタイ 13 章以降から、イエス様の語られるメッセージというものが、直接的なものから、例え話が増えていくのです。つまり、今日のみことばで、イエス様が教えてくださっているように、例え話をもって、真剣に聞こうとする者たち(例えば、弟子たち)にだけ、神の真理を教えて…、真剣に聞こうとしない者たち(群衆やパリサイ人たち)には、あまり、多くの真理を伝えられないように、シフトしていかれた(つまり、その方向性を変えられた)ように見えるのです。

< 励ましの言葉 >

そう考えますと、現代の私たちのように、神様の御教えを聞くことができるというのは、大きな恵みです。そうじゃないでしょうか? だって、今日のみことばの 17 節にこうあるじゃないですか! 『まことに、あなたがたに告げます。多くの預言者や義人たちが、あなたがたのしているものを見たいと、切に願ったのに見られず、あなたがたの聞いていることを聞きたいと、切に願ったのに聞けなかったのです。』とあるように、今、私たちが聴くことができている、たくさんの教えは、旧約時代の、どの預言者や偉人たちでさえ、知ることのできなかったものなのですから!

皆さん、覚えてくださっています? …私たちが今年の 1/2 に学んだマタイ伝 25 章のみことば…、あそこで、タラントを託してくださったご主人様は、救われていなかった者…、つまり、1 タラントを預かったしもべから、その 1 タラントを取って、10 タラント持っていた者にあげてしまわれたでしょ? …そのように、天の神様は、本当に救われて、より神様を愛する者へ、より多くの祝福を与えてくださるのです。

ひょっとしたら、現代の私たちは、「恵みボケ」してしまっていないでしょうか? 今も、世界のある地域では、様々な自由が規制されていて…、堂々と、聖書のみことばを聞くこともできない国や地域もあるわけでしょ…。また、ここ日本でも、聖書のみことばを聞きたくても、メッセンジャーがいない、牧師がいない、良い教会が無いなんていう方も結構いるわけです。果たして、私たちは、感謝をもって、みことばを聞き、みことばを学んで…、それをたくわえて…、実践しようとしているでしょうか?

ひょっとしたら、私たちは、もっともっと神様を愛し…、何より、神の蒔いてくださった、このみことばの種を大事にして、育てていくことが必要なのではないでしょうか? 皆さんの…、このみことばに対する態度は、そのまま、皆さん自身の信仰を表わしています。また、皆さんの、みことばに対する態度は、そのまま、皆さんのところへブーメランのように帰ってきます…。もしも、私たちがみことばを粗末にするなら、それによ

て、その人は、神からの祝福を失ってしまうでしょう。しかし、もし、私たちが、このみことばを愛するなら、それは、より大きな祝福へと繋がっていくはずです。どうか、このみことばを粗末にすることなく、ますます、熱心に、みことばを聞き、それを実践する者となっていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。